

# the People

元気なまちには 元気な主張を続け  
元気に行動する 市民がいる

the people (ザ・ピープル)  
2016年 10月発行

発行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル  
代表者：吉田 恵美子  
所在地：福島県いわき市小名浜字蛭川南5-6  
タウンモールリスポ内

TEL:0246-52-2511 FAX:0246-38-9538  
E-mail: the-people@email.plala.or.jp  
URL: http://npo-thepeople.com/



## 収穫の秋到来!



10月も半ばを過ぎ、コットン畑では連日収穫作業が行われています。昨年、収穫時期が大幅に遅れて、収穫しようと思いでいた皆さんに残念な思いをさせてしまったことが嘘のようです。今年は早い畑では8月末から収穫が始まり、順調な滑り出しを見せています。夏の暑さが幸いしたようです。逆に秋になってからの長雨の影響を心配していたコットンチームにとっては、ホッと胸をなでおろしているところです。自然任せの農業の難しさを日々感じています。

毎年一番たくさんの収穫量を誇る泉町中ノ坪の畑では、このままでいけば10月中には収穫を終えるのではないかとと思うほど、毎日収穫があります。収穫祭の開催を昨年の状況を鑑み、11月半ば過ぎにずらしたことを後悔したくなるほどです。コットン畑においでくださる皆様、今年はどうぞ早めにおいでください。

今年は、沢山の大学生の方がコットン畑に来てくださっています。聖心女子大学・学習院大学ANCHOR・長崎大学・名古屋学院大学・横浜市立大学…。そして、どの大学の皆さんも畑作業に汗を流し、コットンパイプ作りを通じた交流に積極的に参加してくださっています。大学生の皆さんに私たちのプロジェクトを通してお伝えしたいことは、福島浜通りの今と未来です。そこに各大学の皆さんがそれぞれ独自のつながりのあり



方を見出して下されば嬉しいですよ。

10月14日、広野町に新たに設けられた「みんなの畑」には、東京電力の社員の方々15名がコットン収穫のお手伝いにおいでくださいました。今年からコットン畑の管理をしてくださっているNPO法人広野わいわいプロジェクトのメンバーと一緒に農作業。これから広野町の未来づくりが始まります。

## コットンチーム信州へ



9月25日、長野県信州高山村で開催された「2016全国コットンサミットin信州高山」に参加し、ふくしまオーガニックコットンプロジェクトとしてのブース展示をさせていただきました。いつもコットン栽培のベースを支えているピープルコットンチームのメンバー4人も初参加。ブースを訪れるたくさんの方々との交流を楽しみ、情報交換を行いました。



コットン栽培に関しては、西日本に比べて後発地である福島ですが、私たちのほか「棉の里」(喜多方市)「コットンプロジェクト福島」(福島市・二本松市)と3組織の出展があり、確実に福島でのコットン栽培が根付いていることを伺わせました。コットンサミット実行委員会会長の近藤健一氏とイッセイミヤケ取締役の皆川魔鬼子氏の講演などの後、ステージではNPO法人日本オーガニックコットン協会による表彰式があり、ふくしまオーガニックコットンプロジェクトが大賞を受賞させていただきました。栽培から商品化まで一貫して進めていることを高く評価頂いたとのことでした。これまでご支援くださったたくさんの方々の皆様のお力添えの賜物です。皆様、本当にありがとうございました。

サミット翌日には、コットンチームは信州大学繊維学部の実習農場を訪問。種の保存や品種改良目的でコットン栽培を行っている圃場の見学と実際の栽培に則した技術指導をいただきました。また、朝日村の朝日カラマツ工房にもお邪魔し、ふくしまオーガニックコットンプロジェクトのためにオリジナルの手紡ぎセットを開発して下さった工房の皆さんに、今後の事業展開に関するご相談させていただきました。

この一連の事業は、JCB様からの寄付金を財源として実施させていただきました。

## みんなの畑収穫感謝祭

来る12月3日、今年一年かけていわき市小名浜上神白のコットン畑の一角で活動してきた「みんなの畑」の収穫感謝祭が、コットン畑と大熊町仮設住宅集会所を会場として催されます。原発避難者の皆さんと地域住民の方々がつながりを生み出すための場として、これまで活動してきたのが「みんなの畑」です。富岡町からの避難者の方が大半を占めていますが、地域内外のボランティアやほかからの避難者の方も一緒に、通年でコットン栽培に関わり続けてくださっています。今年は、「自分たちで野菜栽培にもチャレンジしてみよう!」ということで、コットン栽培とは別に、数種類の野菜を種や苗から育てています。夏場には、とうもろこし、枝豆、スイカといった収穫を皆で分け合い、ちょうど今はさつまいもの収穫時期になっています。これから冬野菜を育てようと蒔いた大根と白菜の種も順調に育っています。12月3日には、コットンだけではなくこれらの様々な野菜と、たくさんの方たちとの出会いという実りにも感謝して、収穫体験と食の共有をしたいと計画しています。当日は、ウクライナ出身の歌手カテリーナさんも歌声を届けに来てくださいます。どなたでもご参加いただけます。是非おいでください。

### みんなの畑収穫感謝祭

とき 12月3日(土) 10:00~15:00  
ところ 大熊町仮設住宅集会所及びコットン畑  
小名浜上神白  
午前 コットン畑での収穫体験など  
午後 会食とお楽しみコンサートなど



## 日本チャリティーネットワーク研修受け入れ

WE21ジャパン、オックスファムジャパン、セカンドハンド、中部リサイクル運動市民の会、エコメッセ、そして本会で組織する「日本チャリティーショップネットワーク」。その全体としての研修が、9月3、4日の両日、本会の活動現場で行われました。テーマは、「チャリティーショップと災害」。高松、名古屋、神奈川、東京と全国各地で活動する仲間たちを迎えて、ピープルの活動のシステムをご覧いただくとともに、震災後の私たちの動きなどを通して、今後チャリティーショップという活動形態が災害時にどのように機能できるかを学び合いました。

チャリティーショップとは、市民から寄付された品を販売して現金化し、社会的活動を進める活動形態です。仕分けや支援物資集めは得意分野ということになります。実際、東日本大震災時にピープルでは、手元集まる古着の中から仕分けした防寒着などを救援物資として津波被災された方々に提供させていただきました。また、避難所のニーズと集まる救援物資のミスマッチを現場で数多く体験し、それを解決しようと独自の情報発信などを行っていました。高松市に拠点を置くセカンドハンドさんでは、阪神淡路大震災、東日本大震災の2度に渡り外部支援団体としての経験を重ねてきました。そうした動きの中から、皆で共有すべき様々な学びの報告がなされ、それを元にグループワークで今後起こりうる災害にどう向き合えるかの意見を出し合いました。

全国のチャリティーショップが連携することで、今後起こりうる災害に対して広域的な対応のシステムを構築出来るとの想いを共有しながら、次の具体的なステップへの歩みがスタートしました。



つばやき  
友人がくれた一枚のメモ。座右の銘として目の付く場所に貼ってあり、一日数回は読み返している。「たった一言が人の心を傷つける。たった一言が人の心を暖める。心にズシンと響く言葉である。私自身何気なく吐いた一言で他人を傷つけて来ただろうし、その事に気づかず今まで来たかもしれないと考えると悔しい限りである。以来反省と共に新たな思いで接するようになったと感じている。仏法では「災いは口よりいって身を破る」とある。最近政界では議員さん達が度々失言をする。そのつど野党から追求され「あれは真意ではなかった」と弁明のための答弁が繰り返されている。その間国会審議がストップし遂には議員辞職に追いやられる。ああした一連の騒ぎを見ているとこの言葉を議員さん方にそっくり送りたいと思う。『さて、顔を色を伺う』という言葉がある。「今日はあの人きげんが良さそう、いや悪そうだから話すの止めとく」という会話を耳にすることがある。対話がスムーズに持たないことは、双方にとって大きな損失であり残念なことだと思ふ。一方陰でグズグズ言っているのは嫌だから何も思わなかったことは、その場で口に出して言う主義の方もいる。これとて自身はスッキリしても、相手によっては傷つくことを知るべきだと思ふ。社会がどんどん便利になり生活が豊かになっても、言葉を使う人間側の思いやりがなければ問題はますますややこしくなる。言葉は使い次第で暴力にもなるし、人々に暖かさを配信するツールにもなる。▼ところで私が24歳の頃、職場の同僚から今までにない真剣な態度で「お前は平らだな」と言われて「いえ小名浜に住んますよ」とトンチンカンな返事をしたことがある。そのあの言葉が物凄く重大なことだった。……とお前のこと見てきたが平らだから気に入っている。即ち結婚の申し込みだった。当時の私は覚えはじめた登記関係の仕事が面白くて、組合活動も楽しかった。何事に対しても夢中で充実の日々だった。何事に対しても夢中で充実の日々だった。何事に対しても夢中で充実の日々だった。50年前のことだしYさんは既に亡くなられているから、あの時の傷は時効として許して貰えると思ふ。最近この「平ら」という言葉が気に入り出した。歳のせいかもしれない。平穏で居られない日々が続く。取り組む事が余りにも多く錯さうしているためか、焦ってしまいたい次々とスタッフに向かっている。あれどうなっている。「あの事早くしてね」「エ」まだなの「ライラ」しながら連発してしまふ。側で若いスタッフが「まあまあ甘南備さん落ちついて」と言ってくれる。深呼吸して「確かに」となる。言われる内が花、言われなくなったら終わりとしようけれど注意してくれる人がいてくれることに感謝する昨今の私である。  
甘南備